

# 平成25年度 病害虫発生予察情報

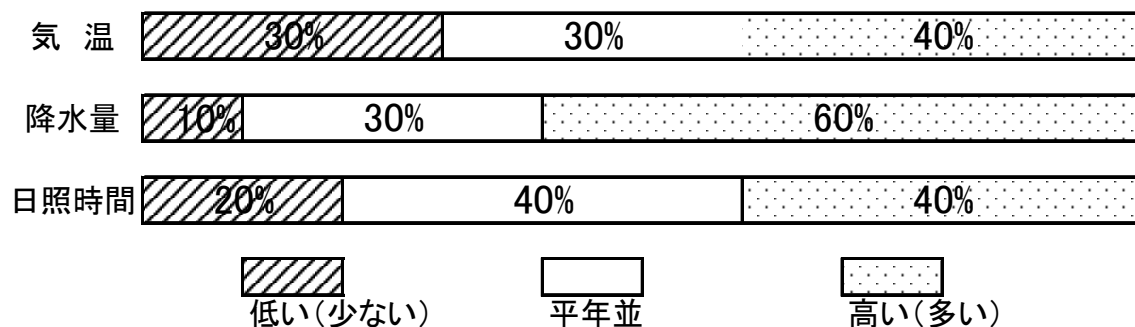
## 発生予報第7号（9月）

平成25年9月2日  
島 根 県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	穂いもち	少ない
		紋枯病	平年並～やや少ない
		白葉枯病	平年並～やや少ない
		ツマグロヨコバイ	やや多い
		トビイロウンカ	やや多い
		斑点米カメムシ類	平年並
		ハスモンヨトウ	平年並～やや多い
		黒斑病	多い
		シンクイムシ類	平年並
		ハダニ類	少ない
果樹	ダイズ	カメムシ類	平年並
	ナシ	うどんこ病	やや多い
		カキミガ	平年並
		カメムシ類	平年並
野菜	アブラナ科野菜	アブラムシ類	やや少ない
		コナガ	少ない
		アオムシ	平年並
		ハスモンヨトウ	平年並～やや多い

中国地方1か月予報(8月31日～9月30日・広島地方気象台8月30日発表)  
<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



#### A. 普通作物

##### 1) イネ

##### (1) 穂いもち

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

少ない

予報の根拠

①伝染源となる葉いもちの発生は少ない。

②イネの生育は進んでいる。

③向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とならない。

##### (2) 紋枯病

予報内容

発生地方

県内全域

発生量 平年並～やや少ない

予報の根拠

- ①全般の発生量は平年に比べてやや少ないが、発病株の発病程度は高いものが多い。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とならない。

(3) 白葉枯病

予報内容

発生地方 常習発生地  
発生量 平年並～やや少ない

予報の根拠

- ①全般の発生量は平年に比べてやや少ない。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(4) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①8月下旬の巡回調査では、捕獲虫数103.2頭/50株（平年46.5頭）、発生圃場率57.1%（平年77.3%）で発生量は平年に比べてやや多い。
- ②予察灯への飛来量は平年並みである。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(5) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①8月下旬の巡回調査では、捕獲虫数9.8頭/50株（平年3.4頭）、発生圃場率65.9%（平年27.6%）で発生量は平年に比べてやや多い。
- ②予察灯への飛来量は平年に比べてやや少ない。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(6) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①8月下旬の巡回調査では、捕獲虫数1.6頭/20回振り（平年6.1頭）、発生圃場率46%（平年74%）で発生量は平年に比べてやや少ない。
- ②予察灯でのアカスジカスミカメの誘殺数は平年並みである。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

2) ダイズ

(1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並み～やや多い

予報の根拠

- ①現在、巡回調査での本種幼虫による1a当たりの白変か所数は0.1か所（平年0.5か所）でやや少ない。
- ②フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数は、県東部で平年比132.1%、県西部で97.8%と平年並み～やや多い。
- ③8月下旬に成虫の飛来があり、今後、産卵数が増加し、被害が発生すると考えられる。
- ④向こう1か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯  
発生量 多い

予報の根拠

- ①8月26日の巡回調査では、発病葉率は25.9%（平年16.5%）であり、平年と比べて多い。

②向こう1か月の気象は、本病の発生に助長的である。

(2) シンクイムシ類

予報内容  
発生地方 ナシ栽培地帯  
発生時期 平年並  
発生量 平年並

予報の根拠

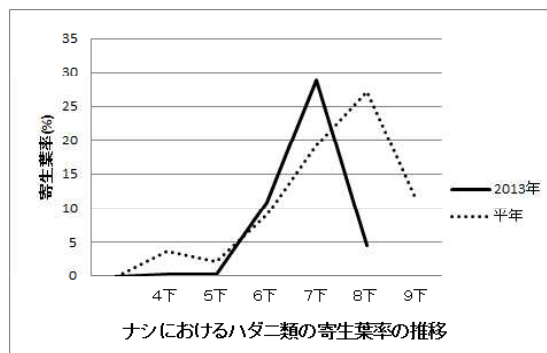
- ①予察圃場（安来市・出雲市）のフェロモントラップでのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺盛期、誘殺数とも平年並みである。
- ②向こう1か月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

(3) ハダニ類

予報内容  
発生地方 ナシ栽培地帯  
発生量 少ない

予報の根拠

- ①巡回調査では、寄生葉率は4.5%/50葉（平年27.1%/50葉）で少ない。
- ②向こう1か月の気象は発生を特に増加する要因とはならない。



(4) カメムシ類

予報内容  
発生地方 ナシ栽培地帯  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①予察圃場（出雲市）の8月6半旬までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数は1256頭（平年2109.1頭）とやや少ない。
- ②チャバネアオカメムシ集合フェロモントラップでの8月1から5半旬までの誘殺数は25頭（平年806.6頭）と少ない。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容  
発生地方 カキ栽培地帯  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①8月28日の巡回調査では、発病葉率は20.1%（平年11.5%）であり、平年と比べてやや多い。
- ②向こう1か月の気象は、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) カキミガ（第2世代）

予報内容  
発生地方 カキ栽培地帯  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①第1世代幼虫による芽および果実の被害は平年並みである。
- ②向こう1か月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

(3) カメムシ類

予報内容  
発生地方 カキ栽培地帯  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①予察圃場（出雲市）の8月6半旬までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数は1256頭（平年2109.1頭）とやや少ない。種類別ではクサギカメムシが466頭（平年359.1頭）とやや多い。
- ②チャバネアオカメムシ集合フェロモントラップでの8月1から5半旬までの誘殺数は25頭（平年806.6頭）とやや少ない。
- ③8月下旬の巡回調査ではカメムシの被害果率は1.8%（平年4.8%）とやや少ない。

④向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

C. 野菜

1) アブラナ科野菜

(1) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県下全域  
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①現在、圃場での発生量はやや少ない。
- ②現在、黄色水盤への有翅虫の飛来量は平年並みである。
- ③向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) コナガ

予報内容

発生地方 県下全域  
発生量 少ない

予報の根拠

- ①現在、圃場での発生量は少ない。
- ②向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) アオムシ

予報内容

発生地方 県下全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①現在、圃場での発生量は平年並みである。
- ②向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県下全域  
発生量 平年並み～やや多い

予報の根拠

- ①現在、圃場での発生量はやや少ない。
- ②フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺累積数は、県東部で平年比132.1%、県西部で97.8%と平年並み～やや多い。
- ③8月下旬に成虫の飛来があり、今後、産卵量が増加し、被害が発生すると考えられる。
- ④向こう1か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

**島根県病害虫防除所**

(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>